

# 先人の様々な足跡から

## 三八人の卒業生のライフヒストリー

横 須 賀 薫

秋田高校同窓会新先蹟録委員会編

### 新先蹟録

秋田高校を飛び立った俊英たち

この本は、秋田県立秋田高等学校の同窓会新先蹟録委員会が編集し、春風社から刊行されてい。同窓会に非売品として納め配布されたものだが、それとは別に表紙のみ変えて市販されることになったと聞く。学校や同窓会と縁のないものにとっても読みごたえのある本になっていると思ひ紹介する。

同窓会の役割は何か、と問えば第一にその学校の卒業生の親睦を図ることがあり、第二に母校へ



A5変・360頁・2200円  
春風社  
978-4-86110-872-3  
TEL. 045-261-3168

の応援、特に財政的支援がある。ここまでのことはたいてい人が承知したり、体験していることになるのだろうが、もう一つ大切な役割に現役生徒・学生に対する教育、というか啓蒙がある。母校が担う教育の方針、思想を同窓の間で再確認し、現役生にもそれを伝える役割を果たそうとする

ことである。

この第三の教育・啓蒙の役割は前二者のそれと比較すれば、よほど自覚的な同窓会でなければ表現できない。秋田高校が旧制中学の伝統を引き継ぐ学校だからと言うなら、わたしが学んだ高校も旧制男子中学が新制高校に衣替えした男女共学校だったが、在学中も同窓会会員になってからも、穏やかで優しい、それはそれで居心地のよいお付き合いに終始している。どこがどうちがうのだろうか。

それは母校に明確で、強い教育理念があるかな

向きはともかく、実際の活動に反映されることは少ないだろう。秋田高校

同窓会はその少ない例の典型、それどころか模範と言つてかまわないだろう。筆者わたくしは関東地方の大都市の学校の出身で、同窓会との付き合いかもそれなりに維持して

いる方だが、第一、第二

の役割に関わることはあっても、第三の役割の渦中に身を置くことになったことはない。秋田高校が旧制中学の伝統を引き継ぐ学校だからと言うならば、わたしが学んだ高校も旧制男子中学が新制高校に衣替えした男女共学校だったが、在学中も同窓会会員になってからも、穏やかで優しい、それはそれで居心地のよいお付き合いに終始している。どこがどうちがうのだろうか。

「鈴木は新任式において、『汝、何のためにそこにありや』と生徒に問い合わせた。入学式や卒業式などの節目ごとに、鈴木はこのことばを発した。生徒はこの言葉を『秋高語』として事あるごとに使い、いつの間にか同窓生、父兄の間にも広まつていった。」(九一頁)

同じことを、もう一人はこう書き残している。「高校時代のことは、鈴木健次郎先生の『汝、何のためにそこにありや』という言葉、終生師の教えとしてこれほどの

いか、そしてそれが在校生にも同窓生にもメッセージとして伝えられており、伝える努力が続けられているか、伝える努力が続けられていた。この本はまさにそのメッセージが結実したもので、ここに語られる三人の卒業生（一人は中退生）のライフヒストリーはある時代の校長が生徒に向かって発した記録である。その問いは「汝、何のためにそこにありや」であり、この本の主題となっている。

その校長とは鈴木健次郎で、同期生で秋田県知事となつた小畠勇二郎から強い要請を受けて一九六三年に校長に着任す

る。そこでこの問い合わせられたという。そこをこの本の中の一人がこう伝えている。

「鈴木は新任式において、『汝、何のためにそこにありや』と生徒に問い合わせた。入学式や卒業式などの節目ごとに、鈴木はこのことばを発した。生徒はこの言葉を『秋高語』として事あるごとに使い、いつの間にか同窓生、父兄の間にも広まつていった。」(九一頁)

本の題名になっている「先蹟」とは先人の足跡を指すが、そこには人は様々だといふことも含意させているのだろうか。

この間ないと、さらに校歌の歌詞に含まれる「わが世の天職いに」や「先蹟追いつつ未来の望」「敬天愛人理想は高く」などと相まって、この学校で学び、卒立つた人たちの意識を高く、鋭いものにする役割を果たしたのだった。それがこの学校で学んだことは、この本に掲載される卒業生たちのライフヒストリーによく現れて

いる。

こう書くと三八人はすべて世の成功者、模範的人士と思われるかもしれない。編者がそこを配慮したかどうかは分からぬが、教師を殴って退学処分になった人物やわいせつ文書を世に送った廉で刑を受けた人物のライフヒストリーも掲載されている。

本の題名になっている「先蹟」とは先人の足跡を指すが、そこには人は様々だといふことも含意させているのだろうか。

高校の先生はやはりできる子に対して特別扱いしているなあ、という記憶がありますね。これはひがみかもしれないし避けらましたね。(二六九頁)

この間ないと、さらに校歌の歌詞に含まれる「わが世の天職いに」や「先蹟追いつつ未来の望」「敬天愛人理想は高く」などと相まって、この学校で学び、卒立つた人たちの意識を高く、鋭いものにする役割を果たしたのだった。それがこの学校で学んだことは、この本に掲載される卒業生たちのライフヒストリーによく現れて

いる。